

知教労と半田市教育委員会との話し合い結果

平成29年10月5日半田市役所

半田市教育長 加来 正晴 教育部長 小坂 和正 学校教育課長 沼田 昌明 主任指導主事 山崎 文宏 知教労副委員長 岩澤 弘之 岡田 康

1 労働安全衛生法にもとづく職場作りを指導してください。

(知教労) 出退勤簿の形式がやっと市内全校で統一されたことは評価したい。中教審の提言では、正確を期するためにタイムカードの導入を勧めている。半田市として、タイムカードなどの導入はどうなっているのか。

(教委) まだ、予算化は考えていない。タイムカードや自己申告にし、正確に記録することが重要だ。早く帰ろうという教員の意識が大切だ。

(知教労) 教員の意識が大切なことは、私たちも感じる。その意識をどう変えていくのかが問題だ。労働安全衛生委員会を各学校で設けるなどの具体的策はどうか。

(教委) 労働安全衛生委員会は、50人以上の職場で開いている。その他の学校は、市の委員会に代表が参加している。労安教育は大切だという認識はある。

(知教労) 県教委の「教員の多忙化解消プラン」では、平成30年度(来年度)中に80時間以上の超過勤務者を半数以下に減らすという計画を示している。具体的な方策はあるのか。

(教委) まだ、具体的な計画はない。市内全教職員を対象にした意識調査から始めたい。

(知教労) 中教審の提言で、学校の電話を一定の時間留守番機能にするなどの対応について挙げられている。市教委としては考えないのか。

(教委) 緊急事態に職員がいるのに電話に出なかった場合など、問題になる可能性がある。校長会では話題になった。学校の照明が点いていて電話が掛からないことも誤解を招く恐れがある。努めて早く帰ってもらうよう働きかけている。

(知教労) 地域や父母に対して、多忙化解消の一環としての取り組みであることを知らせていくことが大切だ。

(知教労) 出退勤簿の中に医師の問診を希望する人がいた。

(教委) 今年度これまでに2名いた。きちんと受けていただいて、経過も見ている。

(知教労) 学校運営上、休憩時間が取りにくい現状がある。

(教委) 法令上休憩時間を取らなければならない。校長に取らせるようにしてもらわなければならない。

(知教労) 取れない場合の対策を具体的に考えない限りこの問題は解決できない。教育委員会として指導していくしかない。

(知教労) 泊を伴う行事の割振りで、学校によって休憩時間の取らせ方に差がある。遊園地やバス・電車内でも長い時間の休憩の計上は不適切だ。

2 学校行事や事務などが職員の負担にならず、教員の自主的な研修が保証できるようにしてください。

(知教労) 学校訪問を早い段階で予定の中に組み込むことによって、教員が単元と進度を予想して指導案を考えることは大変だ。また、学校行事に大きな影響を与えている。いつ来ていただいて、見ていただいて良いので普通に来ていただくようにはならないのか。

(教委) 1年に一度くらい指導案を書き、みんなで学びあうことも、より良い授業をする上で必要だ。

(知教労) 学校訪問のような行事で簡略化しないと多忙化解消も難しい。

(教委) 指導案集にわざわざインデックスを付けたりする必要はない。簡略にしていこうように各校に呼びかけるなど、半田市として努力している。

(知教労) 授業をもっていない教頭や、TTばかりの教・校務など、一時はなくなっていたのに少しずつ増えてきている。教頭も当然児童・生徒とかかわるべきだし、教・校務は専科教員として見合った時間をもつべきだ。

(教委) 指導していきたい。

(知教労) 国語や図工・美術の作品応募が多すぎる。

(教委) 学校の方で、選択していただければよい。

(知教労) なかなか言えない人もいるのではないかと。教育委員会の方で、広報のみの募集にするなどの対応に切り替えていくべきだ。市の作品募集も今年は9月1日に締め切りがあるなど、学校での選定の時間がとりにくい。総務課にそのことを言えば済むことだ。

3 部活動の適切な運営について

(知教労) 部活動による多忙化が一番大きな問題だ。

(教委) 半田市では、かつてスポーツクラブに踏み切ったが、うまくいかなかった経験もある。しかし、外部講師に補助していただくことは解決の一つの糸口だ。

(知教労) 今年度は、半田市としても部活動の運営のガイドラインを出していただいた。大府市では、期間限定で朝部活の廃止を打ち出している。半田市として次のアクションはあるのか。

(教委) 初めに多忙化のところでも出たが、意識調査に取り組むことが大切だ。保護者の考えも聞きたい。

(知教労) 中学校の部活動について、生徒が部活動に参加しない(入部しない)選択肢や、教員が部活動を指導しない選択肢を作っていくべきだ。

4 教育諸条件の充実を求めていってください。

(知教労) 中1と小2までの35人学級を他学年に広げていくように努力してほしい。

(教委) 教育委員会としても同じ考えだ。市長会や教育長会で国及び県に強く要望していく。

(知教労) 半田市は人的支援を積極的に進めていただいているように思っている。

(教委) 半田市としては積極的に進めている。生活支援員は昨年度までの計画で、18校に1校3人、計54人を導入した。今年は、スクールソーシャルワーカーとカウンセラーを1名ずつ増員した。

(知教労) 中教審の提言の中で、教員の事務的負担軽減が示された。給食費等事務担当の加配を入れる予定はないのか。

(教委) 今のところは人件費の増額は考えられない。

(知教労) 財源は変わらないという言い方をこれまでも聞いてきたが、政府からの働き方改革が出ている今は、そのことについて(市議会に)予算を計上する良い機会ではないか。

(知教労) 地域の行事やボランティアに小・中学生を安易に参加させることによる担当教員の休日出勤や仕事量の増大が考えられる。

(教委) 半田市として学校運営支援協議会の設置に取り組んでいる。これは、地域の人たちに積極的にボランティアに入ってもらい、その人々の中でコーディネーターとしての役割もしていただく考えだ。学校側の負担を軽減していくつもりだ。

(知教労) エアコンの導入については、

(教委) エアコンについては、まず保育園から始め、次に幼稚園、その後小・中学校になっていく。はっきりしたことは言いにくいですが、小・中学生への予算化は、順次計画的に実施していく。

4 その他

(知教労) パワーハラスメントについて常に情報を集め、対応していくべきだ。

(教委) そのように考えている。

(知教労) 他市町を含む具体的な事例について説明し、対応を求めた。